

2021年3月期 第2四半期 決算説明会

2020/11/13

2021年3月期 第2四半期 決算説明と通期の見通し

各セグメントの状況

デバイス	在庫過多の状況が続き、生産調整は継続しているものの、 足もとで受注は回復傾向。
電装	二輪主要各国で規制緩和が進み、需要に合わせて生産を再開したが、 足もとでは、コロナ感染者数が再拡大するなど、先行きは不透明な状況が続く。

当社グループの決算日

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新電元工業				1 Q			2 Q			3 Q			4 Q		
国内グループ会社				1 Q			2 Q			3 Q			4 Q		
インド				1 Q			2 Q			3 Q			4 Q		
アメリカ	1 Q			2 Q			3 Q			4 Q					
UK	1 Q			2 Q			3 Q			4 Q					
中国	1 Q			2 Q			3 Q			4 Q					
アセアン	1 Q			2 Q			3 Q			4 Q					

◆コロナの影響が大きかった4～6月は、多くの海外グループの2Qにあたる。

第2四半期連結業績

単位：億円（億円未満四捨五入）

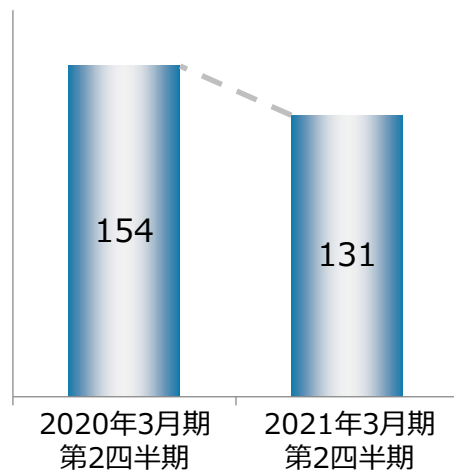
	2020年3月期 第2四半期 実績	2021年3月期 第2四半期 実績	前年同期比
売上高	454	353	▲22.3%
営業利益又は損失	10	▲20	-
経常利益又は損失	10	▲20	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は損失	9	▲50	-
営業利益率又は損失	2.2%	▲5.5%	▲7.7pt.

◆新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減収減益。

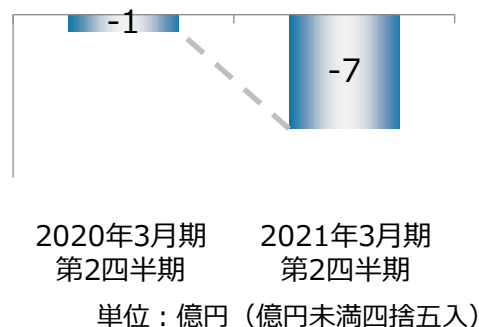
◆構造改革の実施により飯能工場の減損計上、

国内グループ会社の繰延税金資産取崩しにより、最終損益が大幅にマイナス。

セグメント別売上高



セグメント別営業利益



市場動向

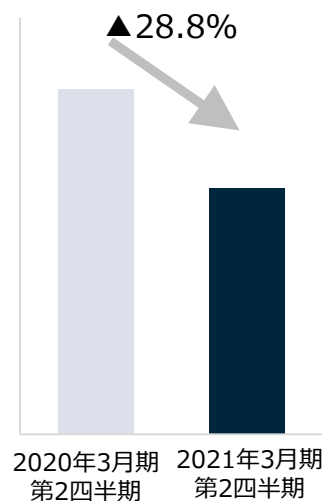
自動車市場などで新型コロナの影響で、生産調整を行う等、市況低迷。

当社の状況

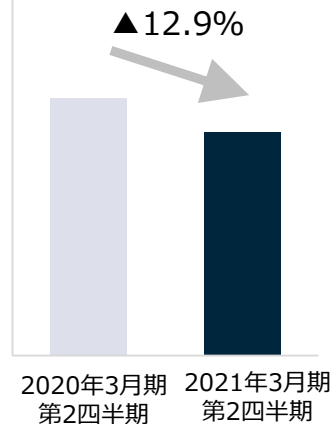
家電市場で一部巣ごもり需要が伸びたものの、主力の自動車市場で、パワー半導体の需要が低迷。

市場別比較

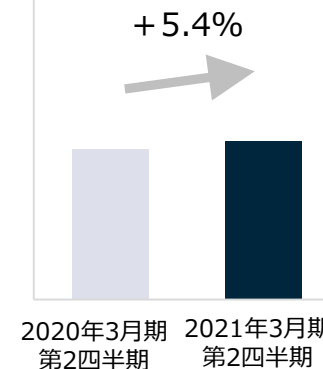
自動車



家電

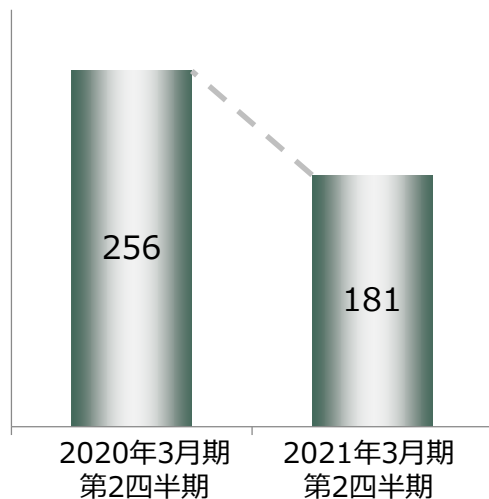


産機

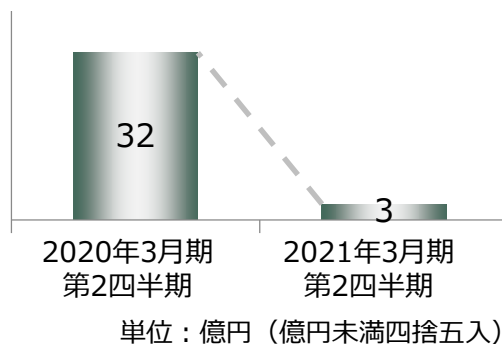


第2四半期連結業績（電装）

セグメント別売上高



セグメント別営業利益



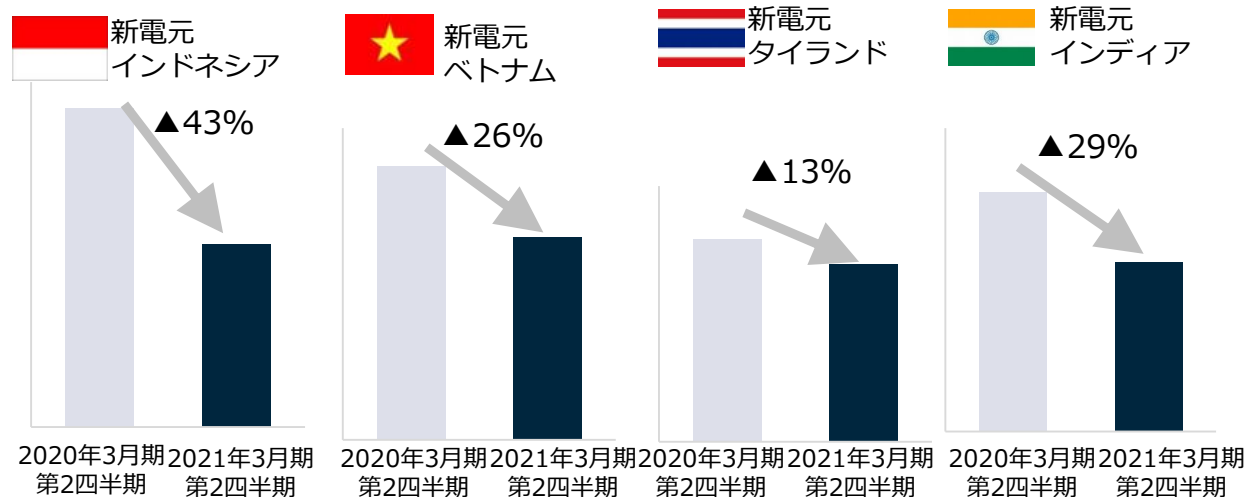
市場動向

新型コロナの影響で、インドでロックダウンするほか、主力のアセアン市場も需要が減退。

当社の状況

インド、インドネシアで1か月を超える操業停止。
アセアン各国でも、需要減により生産調整を実施。

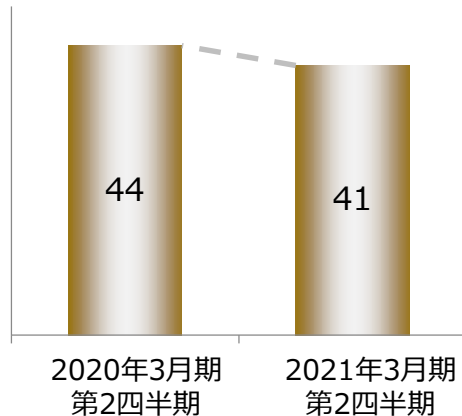
二輪地域別売上



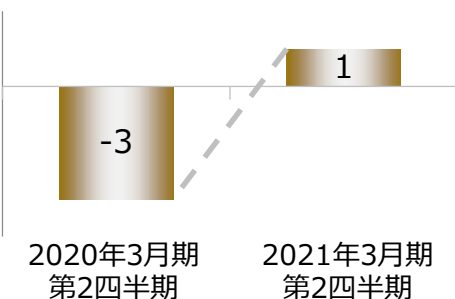
※現地グループ会社の二輪車向け売上高（現地通貨ベース）で前年同期と比較

第2四半期連結業績（その他）

セグメント別売上高



セグメント別営業利益



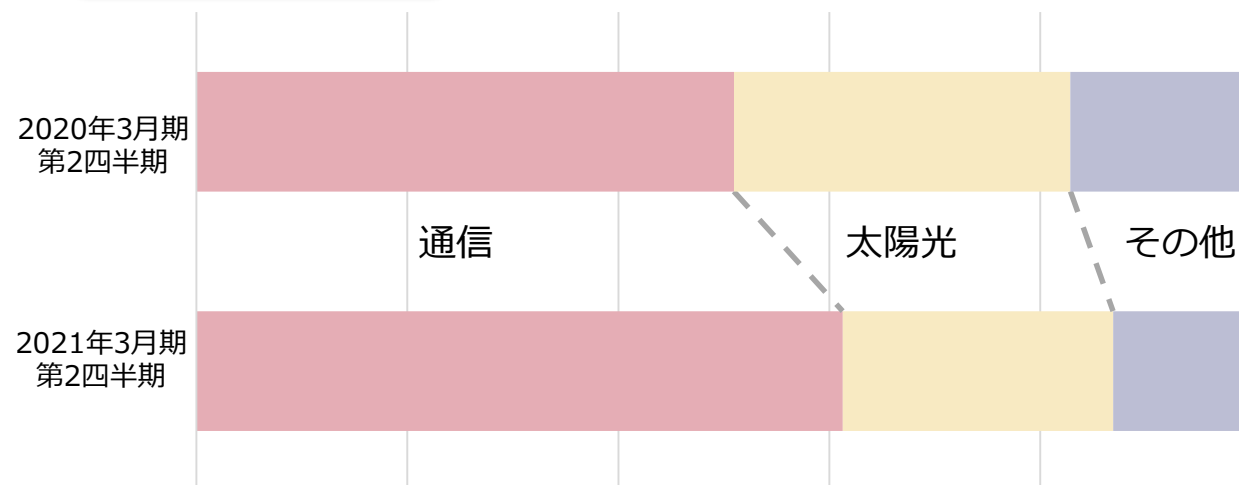
単位：億円（億円未満四捨五入）

当社の状況

通信向けが堅調だったことで、利益を確保。

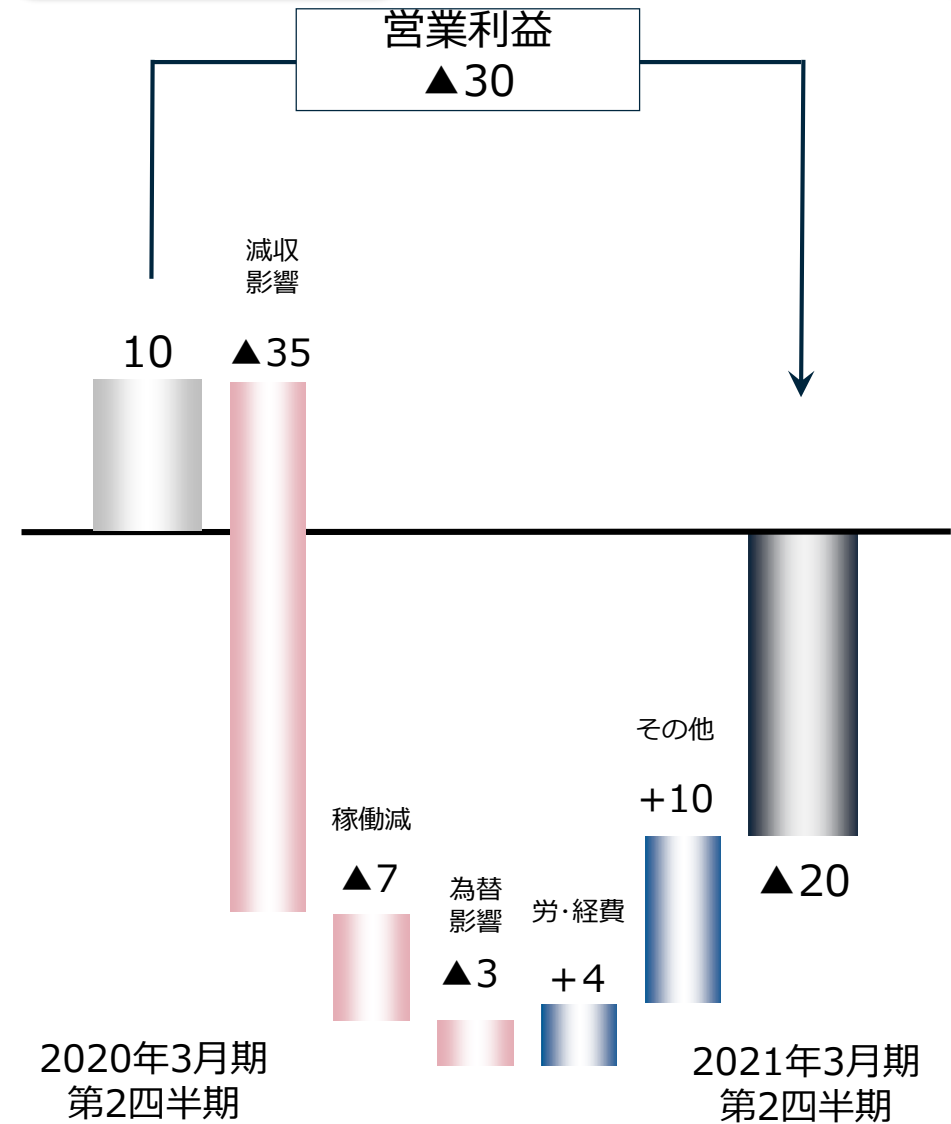
製品群別売上構成比

2021年3月期第2四半期



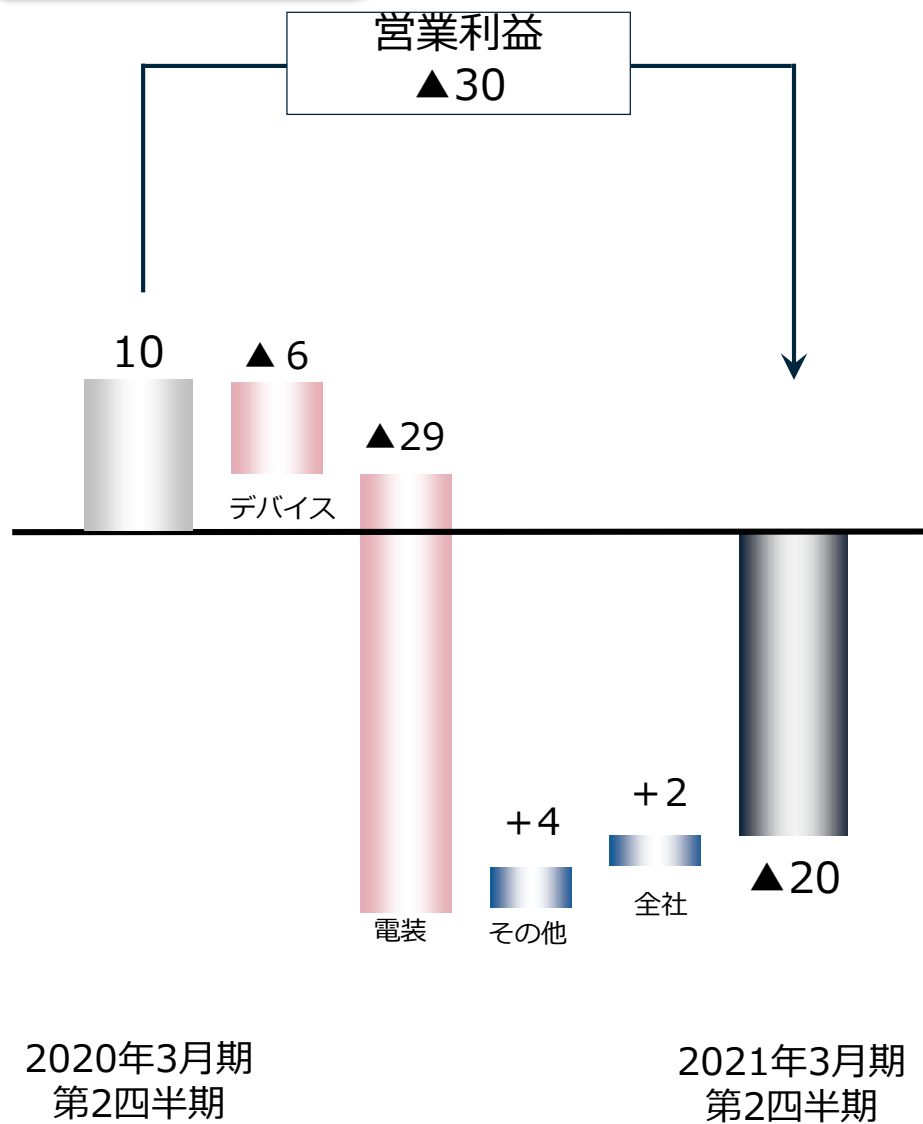
営業利益の増減（前年同期比）

要因別増減益分析



セグ別増減益分析

単位：億円（億円未満四捨五入）



設備投資・減価償却・研究開発

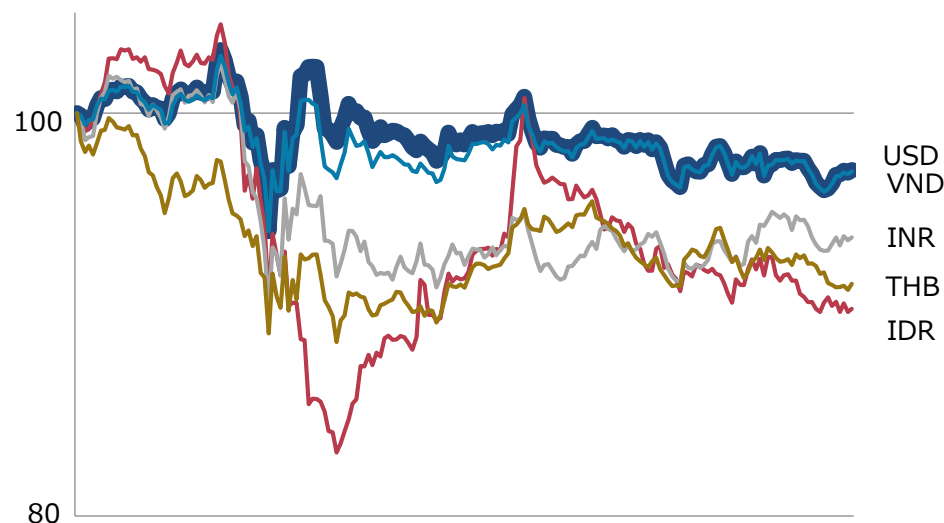
単位：億円（億円未満四捨五入）

	2020年3月期 第2四半期 実績	2021年3月期 第2四半期 実績	前年同期比
設備投資	63	49	▲22.1%
減価償却費	24	23	▲5.6%
研究開発費	25	25	▲2.4%

為替レート

単位：JPY/USD

	2021年3月期 第2四半期 実績
換算為替レート	108.44
平均為替レート	106.97



※2020年1月1日時点の為替レートを100として9か月間の推移を指数化

◆ USドルは変動幅が小さかった一方、アジア通貨が大きく変動。

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2020年3月期	2021年3月期 第2四半期	増減
流動資産	735	785	6.8%
固定資産	481	484	0.6%
資産 合計	1,216	1,268	4.3%
流動負債	294	436	48.2%
固定負債	389	357	▲8.3%
負債 計	683	793	16.1%
純資産	532	475	▲10.7%
総資産 合計	1,216	1,268	4.3%
自己資本比率	43.8%	37.5%	▲6.3pt.
有利子負債残高	272	419	53.7%

◆ 第1四半期に資金調達を行ったことで、負債が増加。

純資産を減らし、自己資本比率低下。

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2021年3月期 計画(8月開示)		
	上期	下期	通期
売上高	340	410	750
営業利益	▲28	▲12	▲40
経常利益	▲29	▲11	▲40
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲30	▲22	▲52



2021年3月期 修正予想		
上期 実績	下期	通期
353	410	763
▲20	▲12	▲32
▲20	▲11	▲31
▲50	▲22	▲72

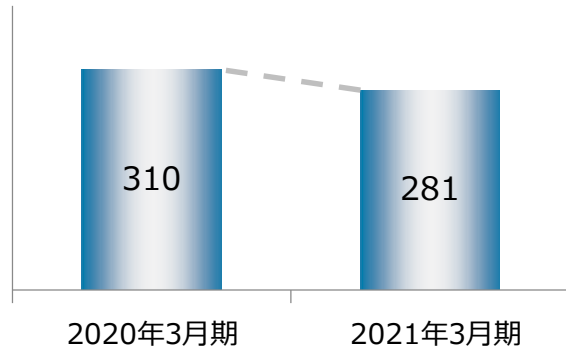
- ◆通期業績については、下期は数値を据え置き、上期実績と同額を修正。
事業構造改革に関する費用は、上期計上したもの以外は未反映の状況。

通期連結業績予想 (セグメント別)

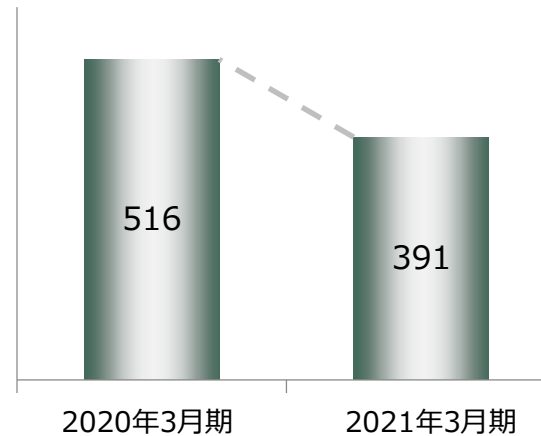
セグメント別売上高

単位：億円（億円未満四捨五入）

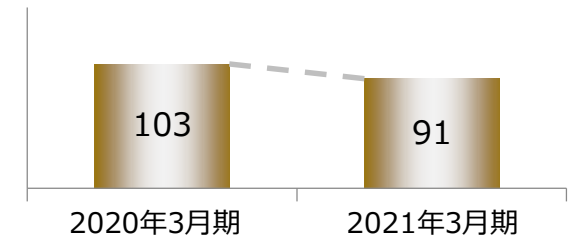
【デバイス】



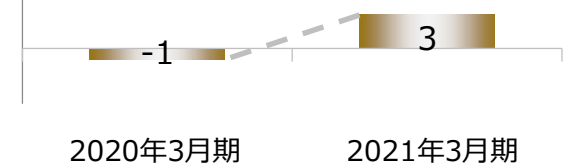
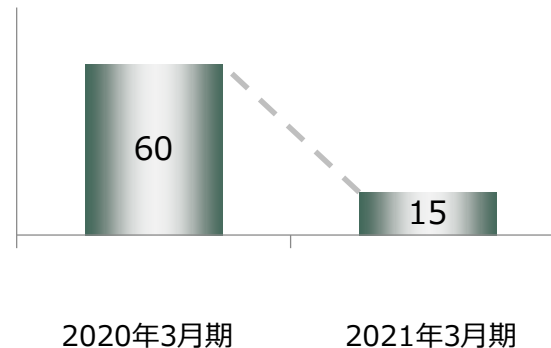
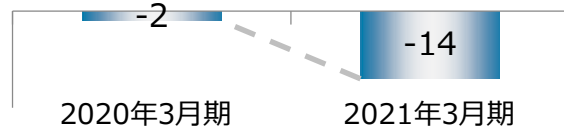
【電装】



【その他】



セグメント別営業利益



【デバイス】 下期、新型コロナから復調を見込むも、通年では回復せず。

【電装】 アジア二輪市場の回復見通しは、不透明な状況が続く。

設備投資・減価償却・研究開発

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2020年3月期 実績	2021年3月期 予想	前期比
設備投資	94	137	+46.5%
減価償却費	52	49	▲5.3%
研究開発費	50	49	▲2.7%

為替レート

通期業績予想の為替レート前提は、

1USドル＝106円

（上期から見直しせず）

配当金

2021年3月期期末配当金は、

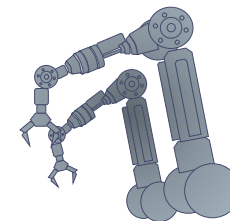
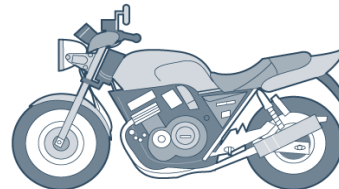
無配 を予定

（前年比▲125円）

事業構造改革について

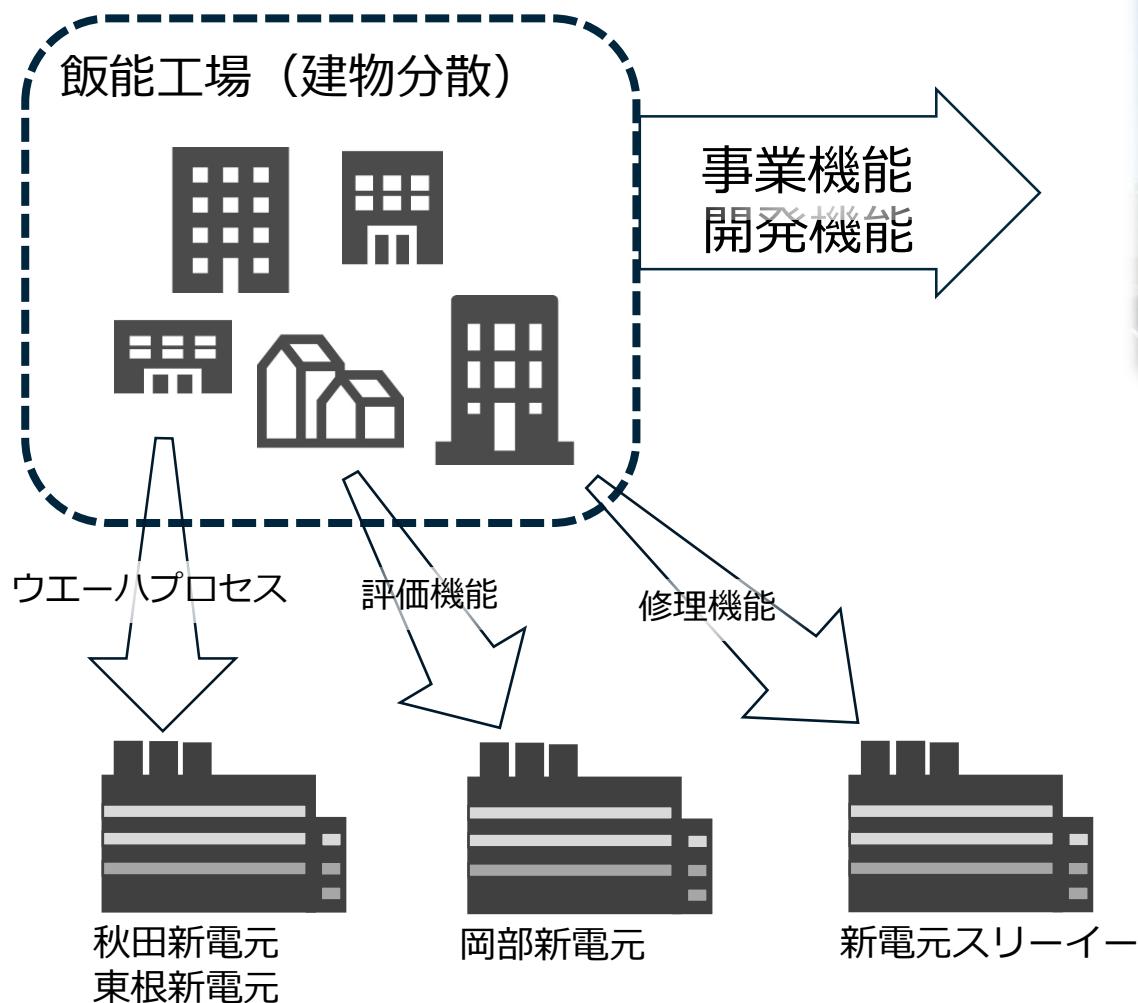
1. 事業構造改革の目的

市場環境の変動に左右されない収益構造を構築し、
重点市場として定めているモビリティ市場、産業
機器市場を中心に競争力を強化することにより、
企業価値向上を図る。



2. 事業構造改革施策

(1) 開発体制の再編



朝霞事業所（一棟集約）

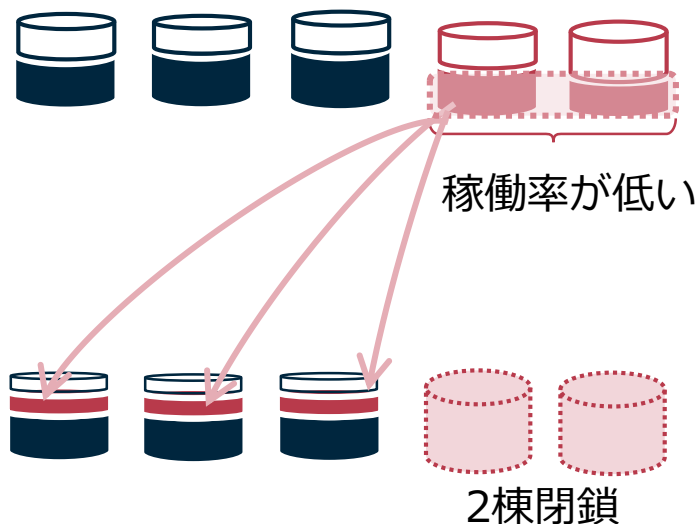
- ・ シナジー推進
- ・ 開発効率の向上

2. 事業構造改革施策

(2) 生産体制の適正化

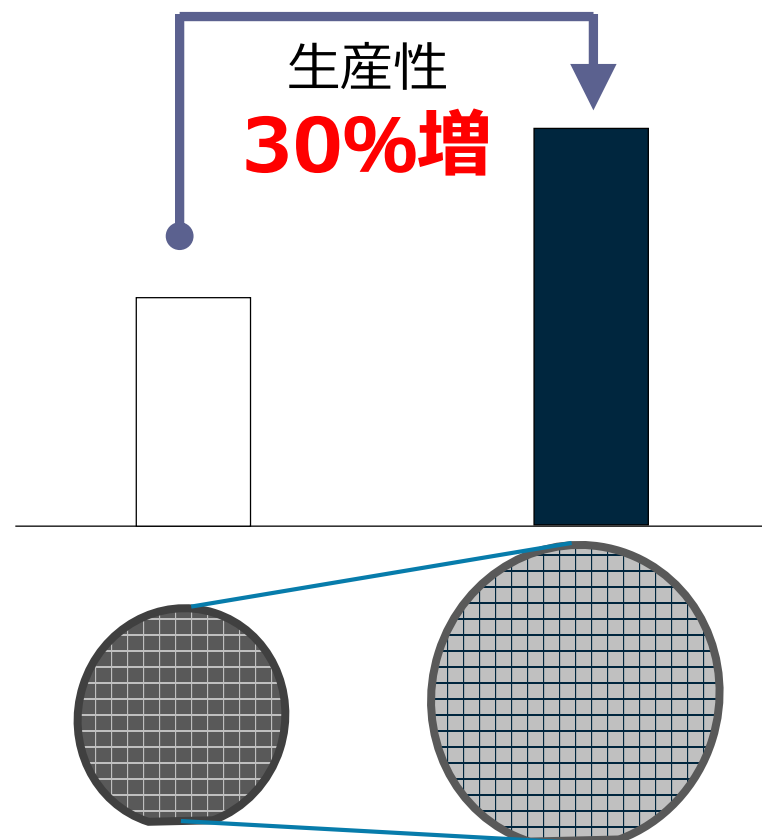
前工程稼働率向上、生産性向上

クリーンルーム閉鎖



前工程稼働率 **20%増**
ランニングコスト **6億円削減**

ウェーハインチアップ



2. 事業構造改革施策

(2) 生産体制の適正化

後工程生産効率化

モジュールIoT生産ライン



装置毎の生産データを本体にて収集、管理

生産性を20%向上・設備故障の予防

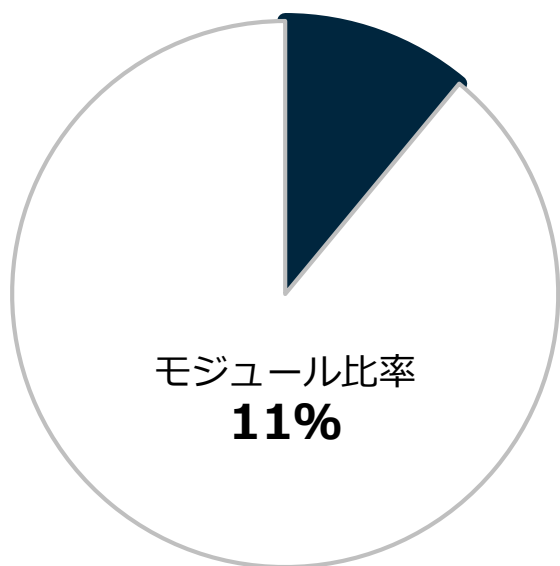
同一ラインで複数品種の効率的な生産

2. 事業構造改革施策

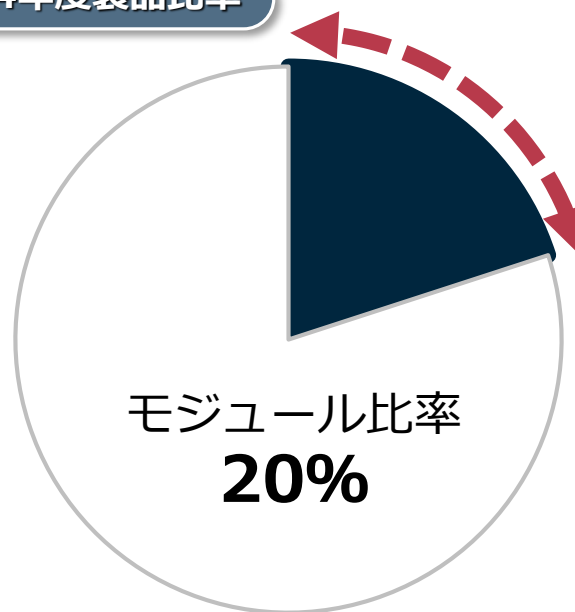
デバイス成長戦略

パワーモジュールの比率を伸ばし、デバイス事業の柱に成長させる。

2019年度製品比率



2024年度製品比率



ダイオードとパワーモジュールの二本柱へ

2. 事業構造改革施策

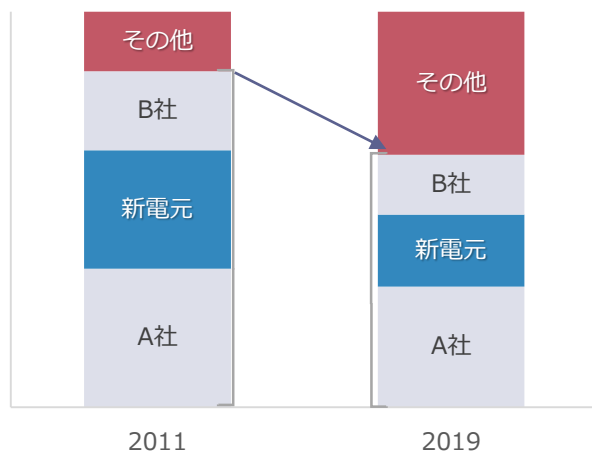
デバイス成長戦略

ダイオード

高い市場実績を守りつつ、付加価値の提供で収益性拡大

市場環境

競合他社参入により、
価格競争激化
主要3社のシェアは縮小



厳しい戦いを強いられている

狙い

実績と、技術力を強みにして
付加価値で差別化を図る

◆現在開発中案件◆

用途	製品
車載 ・EV	独自新構造の高耐圧SiC-SBダイオード
通信 ・サーバ	独自新構造の世界TOP低VFブリッジダイオード
産機 ・小型/薄型電源 ・大型電源	30Aクラス小型三相DIP型ブリッジダイオード モジュールブリッジダイオード用の独自仕様チップ
家電 ・エアコン	高雷サージ耐量・高速SW・低VFブリッジダイオード 独自新構造による世界TOPの大電流・放熱安定 ブリッジダイオード

出典：2012年度版・2020年版 次世代パワーデバイス&パワーエ
レ関連機器市場の現状と将来 株式会社富士経済
2011年データは2012年版・2019年データは2020年版を参照。

2. 事業構造改革施策

デバイス成長戦略

パワーモジュール

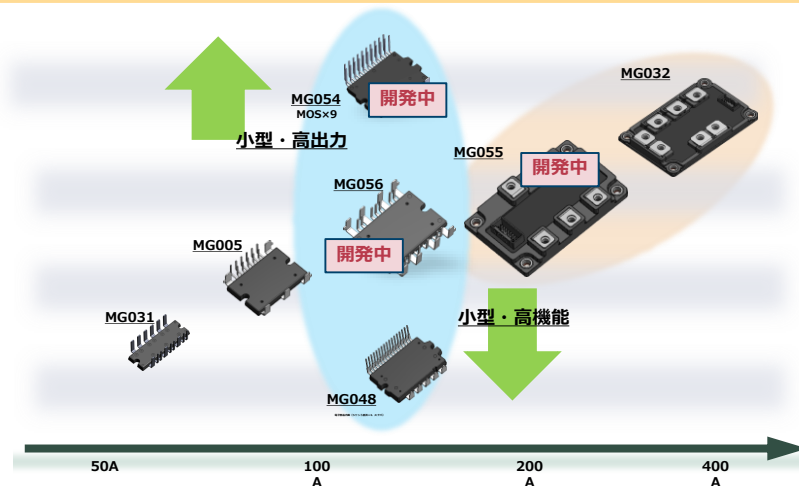
カスタム対応実績を伸ばし、強みの実装技術を活かし成長に向けた土台構築

当社状況

当社の“回路技術”“実装技術”を活かすため、
自社にないものは外部から調達し、
更なる大電流領域に製品展開中

狙い

車載用電子部品の規格に準拠した
ラインナップ拡充し、
自動車市場で売上拡大を目指す



2. 事業構造改革施策

(2) 生産体制の適正化

- ① 国内生産品の一部を海外工場へ生産移管
- ② 製品ごとの全体最適を目指してアジアの生産体制を再編
- ③ 国内では四輪製品を中心に、自動化・省人化

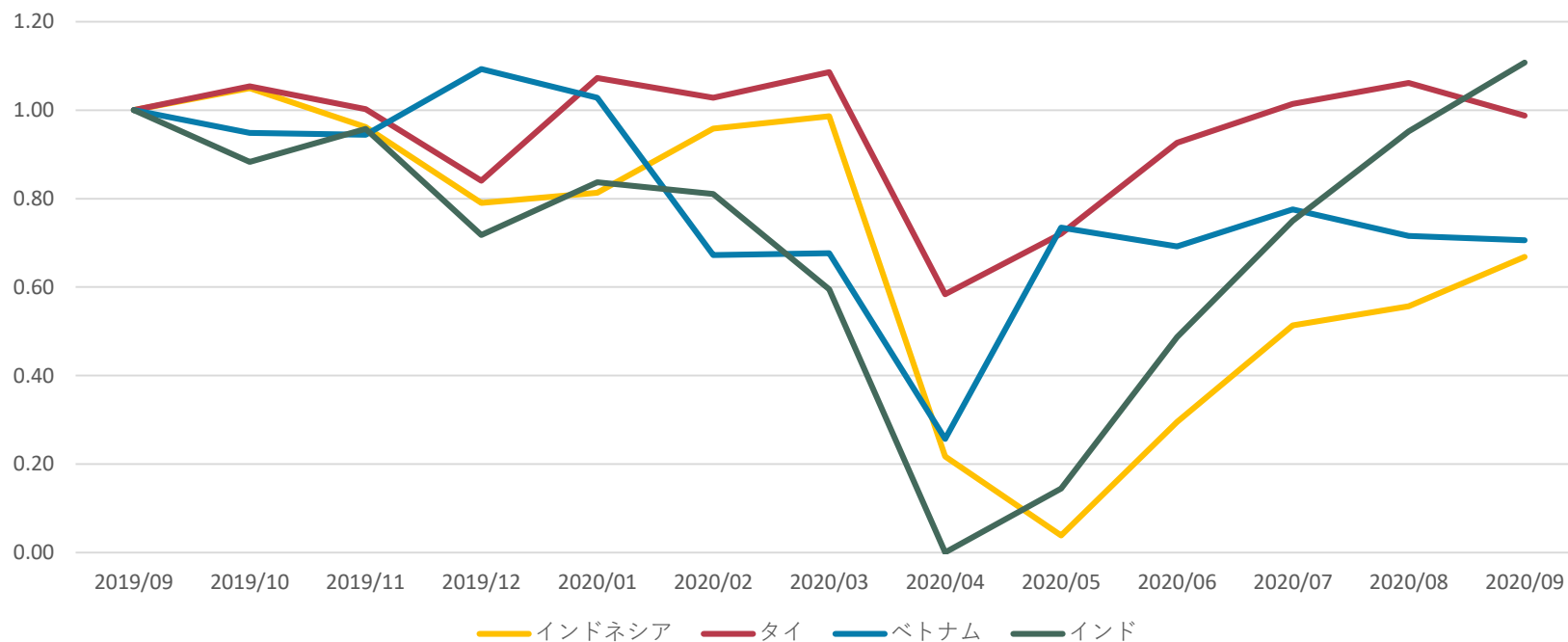


2. 事業構造改革施策

電装成長戦略

※当社調べ

現地二輪車販売台数推移



※2019年9月を1としたときの、各国二輪車販売台数の推移を数値化。

4月5月をボトムに前年同期の水準まで戻りつつある

2. 事業構造改革施策

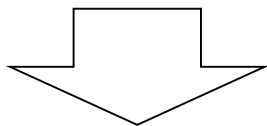
電装成長戦略

二輪

自社開発したデバイスを強みに、高効率品でシェアを伸ばす

市場環境

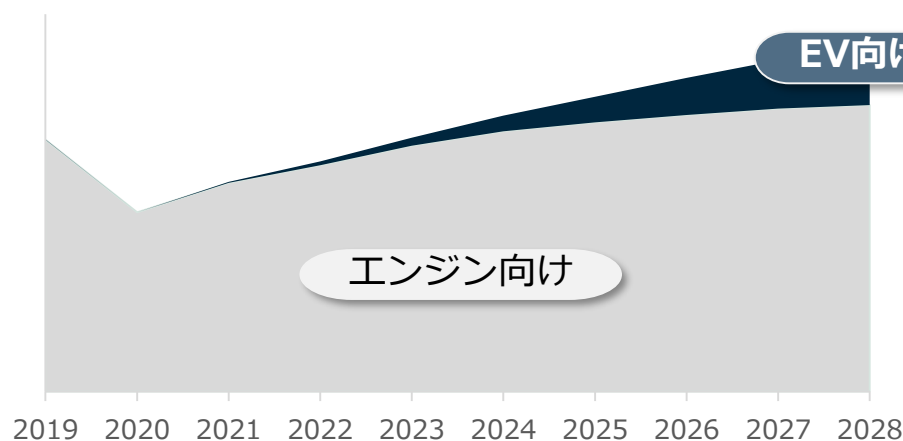
現状アセアンでは、エンジン車が主流



二輪電動化の市場伸長まではまだ時間を要すとみているが、普及時期は流動的と想定。

狙い

市場環境の変化に柔軟に対応するためにキーパーツとなるデバイスは自社で開発。



エンジン車向け製品で足場を固め、EV化へ地ならしをしていく

2. 事業構造改革施策

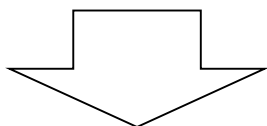
電装成長戦略

四輪

今後需要が高まる環境車両向けに注力

市場環境

CAFÉ規制等
排ガス規制が強化。



環境対応車の開発が進むが、
車両に求められる仕様が複雑化、
開発工数増大。

狙い

カスタム対応で培ってきた実績をベースに、
内製デバイスを活用し、開発スピードをサポート。

開発工数
短縮

内製
デバイス



DC/DCコンバータ



2. 事業構造改革施策

(3) 不採算製品の整理

不採算の太陽光発電向けパワーコンディショナ

製品の生産を計画的に終了

その他、不採算製品の整理及び収益性の改善

(4) 人員の削減・適正化

海外 生産会社にて機動的に人員を適正化

国内 2021年3月期中

希望退職の募集等、10%人員削減



3. 構造改革費用および効果

構造改革費用

1,357百万円

特別損失（第2四半期）計上

※その他、現段階で算出できない費用は
11/6公表の業績予想には含まれておりません。

構造改革効果

効果内訳	効果額
人件費削減	17億円
原価改善	13億円
経費削減	5億円

合計35億円

黒字回復

中期経営計画指標（売上高・営業利益）の見直し

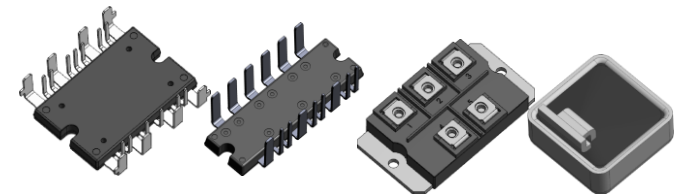
売上高

1150億円 ➡ **840億円**

営業利益

営業利益率
7.6%以上 ➡ **30億円**

エネルギーの変換効率を極限まで追求することにより、
人類と社会に貢献する



ご清聴ありがとうございました。

本資料に記載した将来に関する見通しは、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、多分に不確実な要素を含んでおります。
従いまして、実際の業績は、業況の変化などにより記載の見通しとは異なる結果となる可能性があります。

Appendix

単位：百万円（百万円未満切捨て）

◆セグメント別連結売上高（上・下）実績、予想

	2020年3月期 実績						2021年3月期 予想					
	上期		下期		通期		上期		下期		通期	
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比
デバイス	15,447	34.0%	15,542	32.7%	30,989	33.3%	13,110	37.2%	15,000	36.6%	28,111	36.9%
電装	25,573	56.3%	26,063	54.8%	51,637	55.0%	18,069	51.2%	21,000	51.2%	39,070	51.2%
その他	4,410	9.7%	5,928	12.5%	10,338	11.1%	4,108	11.6%	4,999	12.2%	9,108	11.9%
合計	45,431	100.0%	47,533	100.0%	92,965	100.0%	35,288	100.0%	41,000	100.0%	76,289	100.0%

◆セグメント別連結営業利益（上・下）実績、予想

	2020年3月期 実績						2021年3月期 予想					
	上期		下期		通期		上期		下期		通期	
	営利	利益率	営利	利益率	営利	利益率	営利	利益率	営利	利益率	営利	利益率
デバイス	△ 52	△0.3%	△ 189	△1.2%	△ 241	△0.8%	△ 672	△5.1%	△ 700	△4.7%	△ 1,373	△4.9%
電装	3,219	12.6%	2,803	10.8%	6,022	11.7%	295	1.6%	1,200	5.7%	1,496	3.8%
その他	△ 298	△6.8%	177	3.0%	△ 121	△1.2%	98	2.4%	199	4.0%	298	3.3%
調整額	△ 1,873		△ 2,028		△ 3,901		△ 1,676		△ 1,899		△ 3,576	

※連結営業利益は、セグメント間の内部売上高を含んだ数値で算定しています。

◆全製品 市場分類別売上高構成比（前期比較）

単位：百万円（百万円未満切捨て）

市場分類	2020年3月期 第2四半期	2020年3月期 通期	2021年3月期 第2四半期	
	構成比	構成比	構成比	売上高増減率
通信	6.6%	7.9%	9.4%	10.3%
情報	1.6%	1.5%	1.9%	△8.0%
自動車	57.9%	56.6%	50.2%	△32.4%
産業	20.8%	21.0%	24.0%	△10.2%
家電	12.4%	12.3%	13.8%	△12.8%
その他	0.7%	0.7%	0.7%	△12.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	△22.0%

◆半導体・IC製品群 市場分類別売上高構成比（前期比較）

市場分類	2020年3月期 第2四半期	2020年3月期 通期	2021年3月期 第2四半期	
	構成比	構成比	構成比	売上高増減率
通信	2.4%	2.4%	2.5%	△12.7%
情報	4.1%	3.9%	4.5%	△7.9%
自動車	39.4%	39.1%	33.1%	△28.8%
産業	21.6%	21.4%	26.9%	5.4%
家電	31.2%	31.8%	32.0%	△12.9%
その他	1.3%	1.4%	1.0%	△29.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	△15.2%

※上記比率は、新電元単独のデータを元に算出しています。

単位：百万円（百万円未満切捨て）

◆半導体製品群別売上高構成比（前期比較）

製品分類	2020年3月期 第2四半期	2020年3月期 通期	2021年3月期 第2四半期	
	構成比	構成比	構成比	売上高増減率
ダイオード	80.1%	80.2%	78.9%	△16.5%
サイリスタ	3.5%	3.2%	3.1%	△25.4%
I C	5.3%	5.4%	5.7%	△8.0%
スイッチング素子	3.5%	3.4%	3.2%	△23.2%
パワーモジュール	7.6%	7.8%	9.1%	1.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	△15.2%

※上記比率は、新電元単独のデータを元に算出しています。

朝霞事業所先行評価



CASBEEウェルネスオフィス認証
最高評価『Sランク』取得



BELS認証（設計契約図）
『ZEB Ready』取得